

新町小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上 : 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
～ICT活用の工夫～
外国語教育: コミュニケーション能力や人と関わる力の育成に視点を当てた授業づくりの推進

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長
前田 彩子	遠藤 史比古 田原 佳奈	竹中 章公

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○正しい答えを一問一答で考えることは得意。 ○最後まであきらめずにやりきる。 ●話し方、聞き方が十分身に付いていない。 ●学習規律の統一ができていない。	・話し方、聞き方のスキルを身に付ける。 ・自分の学びを振り返られるノートづくりができる。	・話し合いの仕方を学校で共通理解し、一斉に取り組む。 ・授業のめあてを示し、ノートやワークシートでその学びを振り返ることができるようにする。 ・タブレット学習で個別最適な学習の機会をつくる。	・授業で子どもの意見をつなぎ考えを深められるように、具体的な指導方法について研修する。 ・学習の手引きや書き出しのリード文など、学びのヒントになるものを示す。 ・毎時間必ず学習のめあてを板書で示し、可能な限り振り返	・竹中校長による教員研修を行った。 ・自主学習のアイデアを具体的に示した家庭学習の手引きを作成し、個人懇談で説明した後に配布した。 ・授業では、友達を考えや作品を手本に学び合う機会をつかった。 ・学習のめあてを板書することで、児童の振り返りを充実させて、身についたことを自覚させることができた。	・読書時間の確保 ・タブレット使用のためのきまりを共通理解して掲示する。 ・授業で振り返りの時間を確保するため、時間配分を考慮する。 ・実物や映像などで児童のモデルとなるものをストックする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達や低学年の子どもに優しく接し補助ができる。 ●困っていることや気持ちを表現しにくい子どもが見られる。 ●自分の考えを明確にして話し合うことが十分にできていない。	・自分の考えを明確にもち、豊かな表現力を身に付け伝え合える。	・子どもの興味関心から課題を見つけさせ、めあてを明確にもたせる。 ・豊かな体験活動を設定し、課題と結びつけて振り返り、自己評価する。 ・話型や思考ツールを使った話し合いの経験をさせる。	・文章を読み取り、その構成を考えたり内容を要約したりさせる。 ・子どもが深く考え根拠や理由を述べるができるよう、発問を工夫する。 ・目的をもち相手に伝えるような自己表現の機会を設ける。	・ペア学習やグループ学習を通して、気付きを広げ深めることができた。 ・様々な体験活動を行い、学外の方と交流することでコミュニケーション力が高まった。また、感想などを書く機会が増え、内容を整理しながら考える力がついた。	・正確に聞き取り、要約する力をさらに高める。 ・論点をつかみ、伝える力をつける。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、まじめに一生懸命取り組む。 ●自分で課題を見つけ、主体的に取り組むことが苦手。	・目標や課題を自分で設定し、実現のために努力をし続ける。	・授業の中で、個に応じた目標を設定して取り組める機会をつくる。 ・今までの自分より成長できている部分をほめて伸ばす。 ・「失敗は成功のもと」を合い言葉に、何事にもチャレンジできる学級づくりを進める。	・子どもが個に応じた学力を付けるための具体的な教材や手立て、手引きを準備する。	・高い目標にしすぎず、個に応じた目標設定を行った。 ・ランランランニングでは、去年の自分の記録からの伸びで成長を実感することができ、意欲や自己肯定感が高まった。	・伝える相手を意識して活動できるように内容や場を設定する。 ・個に応じた教材など、タブレットの効果的な活用を考え、取り組む。

令和5年度 学力向上ロードマップ

